

平成 26 年 10 月 31 日  
近畿総合通信局

## 「戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）」の 平成 26 年度第 2 回新規採択課題の決定

総務省は、近畿総合通信局（局長：奥 英之（おく ひでゆき））管内から応募のあった SCOPE の電波有効利用促進型研究開発の研究開発課題について、外部評価の結果を踏まえ、別紙のとおり 3 件を採択しました。

戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE<sup>※</sup>）とは、情報通信技術（ICT）分野の研究開発における競争的資金です。総務省が定めた戦略的な重点研究開発を実現するために、ICT におけるイノベーションの創出、研究者や研究機関における研究開発力の向上、世界をリードする知的財産の創出などを目的として、独創性や新規性に富む課題の研究開発を委託する事業です。

※SCOPE：Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme

総務省は、情報通信分野の競争的資金である「戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）」の平成 26 年度第 2 回研究開発課題の公募を、平成 26 年 8 月 1 日（金）から同年 9 月 1 日（月）まで行い、全国で 32 件（当局管内 10 件）の提案がありました。

これらの提案について外部評価を実施し、その結果を踏まえて全国で 8 件、管内では 3 件の提案を採択しました。

### <参考資料>

- ・平成 26 年度 応募件数・採択件数・・・・・・・・・・別紙 1
- ・平成 26 年度 採択課題一覧（近畿管内）・・・・・・・・別紙 2

○関連報道発表

- ・戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）の平成26年度第2回研究開発課題の公募の結果  
（平成26年10月31日）【総務省発表】

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000111.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000111.html)

- ・「戦略的情報通信研究開発推進事業（電波有効利用促進型）」に係る研究開発課題の公募（第2回）  
（平成26年8月1日）【近畿総合通信局発表】

[http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07\\_01000535.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01000535.html)

- ・「戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）」の平成26年度新規採択課題の決定  
（平成26年7月18日）【近畿総合通信局発表】

[http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07\\_01000525.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01000525.html)

連絡先：情報通信部 情報通信連携推進課

（担当：青野、三宅）

電話：06-6942-8623

## 平成 26 年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 応募件数・採択件数

プログラム名	近 畿		全 国	
	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
電波有効利用促進型研究開発（第2回）	10	3	32	8
ICTイノベーション創出型研究開発	28	5	119	20
若手ICT研究者等育成型研究開発	8	3	54	22
電波有効利用促進型研究開発（第1回）	3	2	17	7
先進的通信アプリケーション開発推進型研究開発(タイプII)	1	1	4	3
地域ICT振興型研究開発	8	2	77	22
合 計	58	16	303	82

※電波有効利用促進型研究開発（第2回）以外は、平成26年7月18日付け報道発表済み。

〈 参考 〉 対象プログラム

○ 電波有効利用促進型 研究開発

電波の有効利用をより一層推進する観点から、新たなニーズに対応した無線技術をタイムリーに実現するとともに、電波利用環境を保護するための技術の研究開発課題に対して研究開発を委託します。

○ ICTイノベーション創出型 研究開発

国として今後取り組むべき現時点の課題を分類及び整理した「研究開発戦略マップ」において、イノベーションを創出する独創性や新規性に富む研究開発課題の提案に対して研究開発を委託します。

○ 若手ICT研究者等育成型 研究開発

ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の新たな技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者（個人又はグループ）が提案する研究開発課題に対して研究開発を委託します。

○ 先進的通信アプリケーション開発推進型研究開発

経路制御、帯域制御等のネットワークの柔軟な設定・運用を実現する「新世代ネットワーク」※の機能を用いた先進的な通信アプリケーションを実現する開発課題に対して研究開発を委託します。タイプIIは大学及び中小企業を対象とするものです。

※ 新世代ネットワークは、通信量の増加、エネルギー消費の増大、セキュリティ等の既存のネットワークが抱える問題を解決するために、これまでの改良ではなく、白紙から設計した全く新しいネットワークであり、2020年頃の実用化を目指しています。

○ 地域 I C T 振興型 研究開発

I C T の利活用によって地域貢献や地域社会の活性化を図るために、地域に密着した大学や、地域の中小・中堅企業等に所属する研究者が提案する研究開発課題に対して、研究開発を委託します。

## 戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE） 平成26年度 採択課題一覧（近畿局管内）

## ■ 電波有効利用促進型研究開発 ■

## ・先進的電波有効利用型（フェーズⅠ）

研究開発課題名	研究代表者	研究分担者	研究開発の概要	期間
5Gに向けた高度化マルチキャリアによる柔軟な多元接続の研究開発	岩井 誠人 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所)	有吉 正行、菅野 一生、DATTA ROHIT (株式会社国際電気通信基礎技術研究所)	<p>接続機器に応じた柔軟な多元接続を実現するため、FBMCやGFDM等の高度化マルチキャリア(Enh.MC)をベースとした以下の要素技術を確立すべく研究開発を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Flexible Enh.MC伝送：サブキャリア間隔等の波形パラメータの異なるサブキャリアの並列伝送を実現することにより、QoS要求の異なるトラフィックへの柔軟な対応を可能にする。</li> <li>・Hybrid MC伝送：OFDMとの同一システム帯域内での同時伝送を実現することで、4G/5G端末が混在する状況で、接続割合に応じた柔軟な周波数利用を可能とし、5Gへの円滑な移行を促進する。</li> </ul>	1か年度
インパルス無線とインパルス情報処理を統合したシステムコンセプトにもとづく無線センサネットワークの研究開発	若宮直紀 (大阪大学)	Peper Ferdinand、ライブニッツ 賢治 (独立行政法人情報通信研究機構) 寺前順之助 (大阪大学)	<p>インパルス無線ノード内の符号化とセンシング技術、インパルス無線ノード間の符号化とネットワーク技術の2つの課題に取り組む。具体的には、超低消費電力のインパルス信号で情報を効率よく伝達する方式を検討する。シミュレーションおよび試作された無線ノードの実測の両面から、消費電力や情報伝達機能の性能を評価する。多数のセンサの観測値に対する平均、分散、外れ値の有無といった統計量に対して、インパルス型の通信ネットワークに関するreservoir computationの適切な実装を決定し、その有効性を検証する。</p>	1か年度

・先進的電波有効利用型（フェーズⅡ）

研究課題名	研究代表者氏名	研究分担者	研究開発の概要	期間
高周波数帯を活用する端末連携信号処理技術の研究開発	村田 英一 (京都大学)	田野 哲 (岡山大学) 梅原 大祐 (京都工芸繊維大学)	近傍の携帯端末間において信号処理連携グループを適応的かつ効率的に形成する手法や信号処理の分散方法、ならびに干渉補償技術の高度化に取り組む。更に、高周波数帯における連携通信用MACプロトコルの開発を行い、連携に要するオーバーヘッドや消費電力を削減する。既存基地局装置と新たに導入する端末装置により、これら成果を反映した屋外伝送実験を行い、端末連携による周波数利用効率改善効果を実証する。	2か年度

フェーズⅠは、本格的な研究開発のための予備実験、理論検討等の研究開発を行い、優れた成果が得られるかどうかの実行可能性や実現可能性の検証等を実施します。  
 フェーズⅡは、本格的な研究開発で、フェーズⅠにおいて行われた研究開発の成果を踏まえて、目標設定、実施計画、予算計画及び実施体制の妥当性を評価し、フェーズⅡへ進む課題を採択します。